



UP DATE



■第16回通常総会を開催

平成17年6月9日海運クラブ（東京・平河町）において第16回通常総会を開催した。

第1号議案で前年度の事業報告及び決算報告、第2号議案では今年度の事業計画及び予算計画を審議し承認された。

今年度の事業計画において、各委員会活動を通じ、非開削技術の普及発展に寄与するため、定款に定めた各事業を実施すること。また、環境にやさしい非開削技術の特長について、広範囲な社会啓蒙活動を推し進めるため、あらゆる情報メディア、情報発信機会の活用を努めることが承認された。

国際交流事業においては9月19日～21日に開催されるNo-Dig2005ロッテルダム国際会議へ調査団を派遣し日本からの論文発表者に対する支援をする。また、国際会議に先立ちISTT幹事役員会議へ代表幹事として松井会長が出席し、2008年以降の開催都市の選考、今後のISTTの運営等の議題について審議が予定されている。日本の非開削技術の進展と円滑な技術交流を図る主旨から主体的に意見を述べていくことも報告された。

研修事業においては、7月27日に非開削技術講演会「地震と非開削」をテーマに各業界からゲストを招き講演会と意見交換会を会員は無料、非会員については5000円で開催することが報告され承認されました。

11月開催予定の非開削技術研究発表会は同じく会員は無料、非会員は5000円で開催することを報告し承認されました。

見学会も詳細未定であるが8月上旬に開催する予定との報告された。

第3号議案で以下の5名が新任理事として承認された。詳細は本誌91ページの委員会名簿を参照のこと。

新任理事（順位不同）

楠見晴重 関西大学工学部土木工学科教授

側島克信 芦森工業(株)取締役社長

高見浩三 積水化学工業(株)環境土木システム事業部長

田中國幹 (株)奥村組取締役専務執行役員

吉本 宏 コマツ地下建機(株)代表取締役社長

総会に引き続き、映画「掘るまいか」手掘り中山ずい道の記録を上映しました。昨年の新潟中越地震で大変な被害にあった山古志村。その小松倉地区において

昭和初期、豪雪に悩む村人が冬場の交通路確保のために1kmにおよぶ手掘りのトンネルを造った。その完成に至るまでのドキュメンタリー映画である。

映画の上映会の後、2階大ホールに会場を移し遠山名誉会長に感謝する会を開催した。



遠山名誉会長に感謝する会

会には、国土交通省谷戸下水道部長をはじめ日本下水道協会福井理事長など250名を越す来場者があった。はじめにJSTT松井会長による遠山名誉会長の略歴の紹介と「これからも良きアドバイザーとしてJSTTを見守っていただきたい」とのあいさつがあり、遠山名誉会長から、「数年前に体を壊したこともあり、しばらくは休養するが、またゴルフが出来るように体力をつけたい」と元気にあいさつをされた。

ISTTのスターリン会長からも遠山名誉会長に長年のご功労に対する感謝のメッセージが届き、近藤事務局員により代読された。また、第1回のNo-Dig調査団で組織されているキルト会のメンバーによる記念撮影会など、会は終始和やかな雰囲気の中で終了した。



スターリン会長のメッセージを代読する近藤事務局員

■楠田副会長紫綬褒章を受勲

平成17年度春の叙勲において九州大学大学院工学研究院の楠田哲也教授が紫綬褒章を受勲いたしました。紫綬褒章は学術、芸術、技術開発等の功労があった方を対象とするとあり、楠田教授の環境工学における研究が評価されて受賞いたしました。当協会においては現在、副会長を務めていただき、当協会設立当初から理事として発展に多大なる貢献をいただきました。本誌面から読者の方々にご報告申し上げるとともに楠田副会長にお祝い申し上げます。

楠田先生から受賞にあたり、お言葉をいただきましたので、ここに掲載させていただきます。



この度、紫綬褒章を「環境工学研究」で頂戴できましたのも、長きにわたり会員の皆様方に支えられ、大学で何の気苦労もなく研究に専念できたお陰と、心

よりお礼申し上げます。しかしながら、研究の成果が皆様方のお役に立ったかということになりますと反省することが多く、忸怩たるものがあります。そのため、これからも一頑張りするようにとのことと受け止め、一層精進するつもりです。

我が国が公害で苦しんでいた時代に排水処理の研究を始め、公害対策、環境回復から環境創造の時代まで続けることができ、種々の問題を幅広く経験できましたことは、本当に幸せでした。ハードからソフトにわたる下水道工学の幅の広さに助けられたように思います。特に非開削技術の勉強は、まさに目から鱗の連続であります。

これからも国民の生活をより安心、安全で、しかも快適なものにすることに務めたく存じますので、皆様方のご指導を続けて頂戴したく、お願い申し上げます。

九州大学大学院工学研究院 教授 楠田 哲也

■HDD（誘導式水平ドリル）工法委員会を設置

昨年度から工法普及のための技術資料の統一化を目指しHDD（誘導式水平ドリル）工法普及戦略検討会としてワーキンググループが月2回のペースで活動していた。

この活動が認められ、理事会において技術委員会の下部組織としてHDD工法委員会を設置した。

HDD工法はガス事業をはじめとして上下水道事業など、既に500km以上の国内施工実績を有しておりながら、発注者側から用語などの技術資料の統一化がされていないとの指摘が多くあった。用語の統一からスタートした昨年度のワーキンググループの活動により今年度上期には、技術・積算資料作成の目処が立ち、第35回JSTT理事会において委員会としての設置が承認され、新年度から委員会として活動することになった。

委員会名簿は以下のとおり。

○委員長

小谷野信幸 ライフライン工業㈱代表取締役

○委員

- 荒井 行雄 グルンドドリル工法協会技術委員
- 奥村 博 水道用ポリエチレンパイプシステム研究会技術委員
- 鴛海 政志 アーバンノーディグ工法協会事務局長
- 川本 貢一 株式会社パイプライン営業技術部広域営業グループ課長
- 栗尾 浩行 配水用ポリエチレン管協会技術委員
- 佐野 俊章 テラジェット工法協会事務局
- 関根 康正 (有)関根工業代表取締役
- 中山 正志 HDD工建㈱代表取締役
- 原田 茂 コマツ営業本部市場開発部主幹技師
- 柳 清 三井金属エンジニアリング㈱パイプ事業部工事本部長



HDD工法委員会の様子